湿地・里山再生プロジェクト

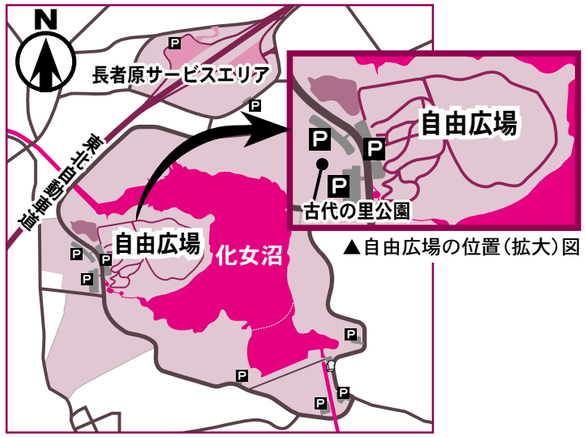
市では、子どもも大人も関係なく、市民誰もが化女沼の自然環境を身近に感じ、学ぶことができる環境づくり「湿地・里山再生プロジェクト」を、市民参加型で進めています。

化女沼周辺でみられる多様な植物群落の再生、在来の水生生物に安全に触れられる場所の再生、里山林から稚樹やドングリを採取し、３６００本の広葉樹の植樹などで、里山の雑木林を再生するプロジェクトです。

現在までに、敷地内にビオトープ（生物が暮らす空間）池３つ、水路の設置、化女沼由来の草本植物の植栽、遊歩道への木質チップ敷きこみなどが、ボランティアや小・中学生などの市民参加型で行われてきました。

化女沼の南西部、古代の里公園の向かい側の敷地約４ヘクタールに、多くの市民が湿地や里山の環境を体験できる場所を整備し、人も生きものも居心地の良い環境づくりを目指しています。

▲多くの市民の皆さんの手により、化女沼の湿地・里山の再生が進んでいます。



▲自由広場の位置（拡大）図

▲自由広場の位置図

平成27年頃

▲自由広場は草がうっそうと生い茂っていました。

▲遊歩道に木質チップ敷きこみ作業を行う小学生。

平成30年12月現在

▲平成28年から始まった植樹作業や遊歩道の整備によって、自由広場の活用幅が期待されています。

化女沼の生きものたち

▲マガン

ふつふつ共和国観光大使パタ崎さんのモデルでもある「市の鳥」。化女沼には最大で約２万羽が飛来します。

▲亜種ヒシクイ

マガンよりも一回り大きなガン類の仲間。近年、飛来数が減少していることも課題の一つです。

▲オオムラサキ

里山・雑木林に住む代表的な昆虫。羽が紫色に輝く大型のチョウで、7月・8月に沼岸に生えるヤナギなどの樹液に集まる。

▲チョウトンボ

幅広い「はね」を持ち、チョウのようにひらひらと飛ぶトンボ。化女沼自由広場でも多く見られます。

化女沼の稀少な植物

▲ノハナショウブ

化女沼に自生するノハナショウブ。アヤメより1カ月ほど早く花が咲きます。

▲キキョウ

絶滅危惧種のキキョウ。化女沼では、数株のみ自生。種子で増やしています。

▲ニッコウキスゲ

5～6月、群生して黄色の見事な花が咲く禅庭花（ぜんていか）（ニッコウキスゲ）。

▲リンドウ

以前は化女沼で頻繁に見られたリンドウ。現在の自生は数株のみ。

化女沼の自然に子どもたちの「未来の種」があります

特定非営利活動法人エコパル化女沼は、化女沼の環境保全や子どもたちの環境教育、市が進める自由広場（環境教育ゾーン）の整備にも携わっていただき、化女沼の自然環境を守り、継承活動を行う第一人者です。ラムサール条約への登録10周年を節目として、エコパル化女沼 木村敏彦理事長と、野生植物研究所所長で宮城誠真短期大学講師の髙橋和吉副理事長にお話を聞きました。

▲エコパル化女沼理事長の木村さん（左）と髙橋さん（右）

「化女沼がラムサール条約に登録された翌年平成21年から、エコパル化女沼の活動が始まりました。子どもたちに沼を知り、将来もずっと沼に親しんでもらうため、自然を体験する『里地・里山探検隊』という環境教育を行っています」と木村理事長が活動概要を話します。野草・山菜の採取や外来魚撲滅大作戦、ホタルの観察、マガンのねぐら入り観察会など、年間を通して9回のプログラムで活動しているそうです。

「子どもたちは、動植物に興味関心があっても、その生態まで良く知らない子が多い。それでも、実際に触って匂いを嗅いだり、目で違いを比較したりすると、はっと驚き、何かに気づく瞬間があります。その感動があると、物事への観察力や関心が変わってくる。何事にもその体感がとても大事で、豊かな感受性を育み、子どもたちの『未来の種』になると思います。化女沼の動植物がいかに貴重なものか、ということも、体験してこそ実感がわき、目には見えない大切なものを見つけるのです」と髙橋副理事長は、環境教育の重要性をときます。

現在、市が整備を進めている自由広場（環境教育ゾーン）は、化女沼やその周辺に昔から自生していた植物・樹木の移植や、絶滅危惧種を種子から育てることにこだわり、化女沼本来の植物が集まった広場を目指しています。広場の整備は、市が募集したボランティアや企業、環境教育で自然を学んだ子どもたちが行っています。

木村理事長は「種から大切に育てた植物たちが、大きな花を咲かせるにはまだ時間がかかりますが、関わったボランティアや子どもたちにとって、とても貴重な体験で、今後が楽しみではないでしょうか。」と話します。

また、「化女沼には外来魚がまだまだたくさんいる。年に数回、定置網の設置や電気ショックなどを与えて除去作戦を行い、約8年継続して、やっと一昨年頃からエビやフナが見えるようになってきました。沼の環境が良くなると、もともと700種以上確認されていた化女沼の植物も豊かになり、昆虫や水鳥も増えることでしょう」と今後の課題を話します。

最後に、「自由広場が完成すると、県内や国内でも珍しい、本来自生する植物が集まった広場となります。散歩、サイクリング、公園でのピクニックなど、化女沼を訪れた人が自由広場に立ち寄って、1年を通じて花が見られる環境にしたいですね。その整備に、自分が関わったんだと胸を張ってくれる人たちがいることは、私たちにとっても誇りです」と髙橋副理事長が期待を話してくれました。

※エコパル化女沼は、環境教育や保全活動の取り組みが評価され、総務省が主催する平成29年「ふるさとづくり大賞（総務大臣賞）」を受賞しました。